

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570512632		
法人名	社会福祉法人 久盛会		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	秋田県由利本荘市岩城富田字根本10番地22		
自己評価作成日	平成29年12月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田市旭北栄町1番5号		
訪問調査日	平成30年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の体調や能力、希望に配慮した趣味活動、作業提供が行われている。地域の祭りや茶話会の開催、ボランティアの受け入れ、地元での買い物等地域の方々との交流を大切にしている。感染予防に努めホーム内や居室の清掃、環境整備に努め毎月1回入居者様と一緒に居室等の大掃除を行っている。運営推進会議では、プロジェクターを活用し写真で判りやすく報告し、司会、活動報告は職員が交代で行い委員の方々との交流が図れるよう工夫されている。近隣の方々による災害支援ボランティアの活動が継続されている。事業所での生活が困難となった方に対し、ご本人、ご家族が安心して生活が継続できるよう法人全体の協力が得られる体制にある。職員全員が有資格者であり、職員の数も多く配置している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は清潔感があり、環境整備も季節感を大切にするとともに、家庭的な雰囲気も大切にしています。畳のスペースと椅子・テーブルスペースとがあり、利用者の好みやADL状態に応じて過ごす場所を選択できるようになっています。事業所の隣には「かやぶき荘」というかやぶき屋根の多目的施設があり、地域の方との交流を図ったりするとともに、地域に開放して様々な活用がされています。母体が医療法人である事から、事業所として受け入れが難しいケースであっても、法人内の事業所へ移る事で生活の支援を法人として継続できるという点は利用者・家族にとっても安心感があります。また、利用者が望めば事業所の対応できる範囲での看取りケアを行なっていくとの事です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、 代表者と 管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全職員が共有できるものとしている。基本的な立ち返りとしている。理念を毎朝読み上げ実践に繋げられるようにしている	法人の理念を職員が毎朝読み上げて、理念の実現に向けた実践につなげていくように努めています。	法人の理念のもと、事業所が地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を事業所職員の意見も反映させて作成していく事を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民やボランティアとお茶会や会食。地元商店や理美容室との交流。近所の方が野菜を届けてくれたり、犬の散歩で立ち寄って頂いている。毎月1回地域の支援ボランティアを受け入れている。今年度は畑をお借りし畑づくりを地域の方と一緒にいった	地域の方より畑をお借りして、地域住民と共に野菜作りを行う等交流の機会を増やすよう取り組んでいます。また、地域のクリーンアップにも参加する等して地域の一員である事を意識した取り組みをしています。	現在の活動を継続させながら、より一層地域の一員として、多くの交流を持てる事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域 とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に 伝え、地域貢献している	運営推進会議や地域の会合及び広報で日常の活動状況やご入居者様の様子を紹介し支援方法を伝えている。町内会との会合にはご利用者と一緒に参加し交流を図り認知症介護の理解を得ている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。入居者、ご家族様、町内の有識者、市・消防職員が参加し映像などで日常の様子を伝え、意見を頂きサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは年度毎に選出しております。会議では事業所の取り組みや課題等について活発に意見交換され事業所のサービス向上に活かされています。	議題内容によっては、選出されたメンバー以外の他機関の方等を呼ぶ等して、より効果的な会議になるように期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席を頂いている。法人が地域ケア会議に出席し空き状況なども情報を共有している。法令に係る疑問についてはいつでも問い合わせに答えていただける関係を築いている	毎月1回の地域ケア会議を通じて、市との情報交換を行っています。また、運営推進会議にも毎月参加いただく事で、事業所内の状況も理解いただいております。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外の施錠をせず行動を抑制しない。身体拘束に関する勉強会で職員は拘束による弊害を理解している。緊急やむおえない状況の体制も理解している。拘束することはない。ご利用者様は自由で開放的な環境で過ごしていただいている	身体拘束は行っておりません。年度計画に身体拘束廃止に向けた内部研修会を位置づけて、法人として研修会を行っています。暗くなるまでは施錠することなく自由に外へ出入りできるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の勉強会に参加し学ぶ機会がある。また毎月のユニット会議で症例などを通じ具体的な対応方法を職員相互が意見交換し学んでいる。認知症ケアの知識不足による、職員のストレスを回避するように努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的に活用する機会はなかったが、法人相談室と連携しいつでも相談できる体制は整っている。今後学ぶ機会を作っていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は、ご本人、ご家族と面談を重ね十分な時間をかけ確認している。懇切丁寧な説明に努めている。改訂などに際しても速やかに文書を交付し説明同意をいただいた上でサービス提供をしている。専門用語は避けご家族が理解しやすい個々に合った説明を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内及び法人内にも意見苦情を受け付ける仕組みがある。利用開始時に機関の紹介および掲示、意見箱の設置を説明している。面会時に日頃の様子を報告し、体調等変化がある際もすぐに連絡し連携を図っている。運営推進会議に入居者、ご家族様の出席がある	日々の関わりの中から利用者の意向を伺うように努める他、面会時等に家族からも意向を伺う等しています。また、運営推進会議においても様々な意見を伺い運営に反映させるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の法人運営会議に管理者が出席し情報を共有している。毎月のユニット会議での意見や提案が反映される仕組みがある。必要に応じて個別面談を実施している	毎月のユニット会議において職員の意見を伺う他、必要に応じて管理者が職員と個別に面談する等して、意見を反映させるように努めています。内容によっては法人の運営会議にて報告され検討されるようになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課において、自己評価と面談が行われ昇給に反映される仕組みがあり、向上心を持って働けるよう整備されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症リーダー研修1名。介護福祉士資格取得1名。法人研修会への参加やGH協議会開催の勉強会への参加もある。職員全員に実践者研修と実践リーダー研修に順次受講させている。法人内の研修やGH連絡協議会での勉強会に参加、報告がある。ホーム独自の勉強会(かや学)が継続されている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、 代表者自身 や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のGH連絡協議会に所属しており、会議を通じ情報交換や相互の交流で質の向上を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所以前に本人や家族から情報を収集し、自分史(フェイスシート)作成しケアに活用している。性格や好みに配慮し気持ちを汲みながら信頼関係を築けるよう努めている。リロケーションダメージにも十分に配慮し慣れるまでは丁寧に説明し寄り添うケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの在宅介護の苦労や大切にしてきたことを理解し、入所時の暫定プランに要望を反映している。入所直後は寂しい気持ちや不安を軽減できるように常に職員が側で寄り添い対応します。初期の信頼関係を積極的に築くようにしています。適度に面会をお願いし家族とのかかわりが希薄にならないよう、自宅でしていたことの継続ができるように支援している。普段の様子などの状態報告を密にし職員と家族の信頼関係の構築に努めている		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意とすること、できる事、好きなことを活かし支援している。役割と自尊心を持ち自信を持ちながら共に生活している。入居者同志がゆっくりとくつろげる空間も作っている。尊厳に配慮し職員はいつも感謝の気持ちを伝えている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは出来る限り面会に来ていただき、一緒にすごしていただくよう努めている。体調などの状況報告し協力を求めることもある。また家族交流会も開催し関係作りに努めている。一方的な立場でなく、共に支えプラン作成も一緒に行なう		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、知人の面会や、馴染の美容室の利用、地域への買い物、自宅への立ち寄りなどに出掛けている。いつでも自由な面会ができ、訪問しやすい環境作りに努めている	これまで生活してきた場所や人との関係が継続できるように、家族の協力も得ながら外出等を行っています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や個性を理解し、互いが支えとなれるような関係作りに配慮し作業活動、外出、席など気の合う仲間作りに努めトラブルにならないようにしている		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望等により法人内での住み替えや入院、再入所のなどは、法人相談室や医療連携室と連携を図り情報の共有を図っている。法人内の住み替えがあった場合は職員が面会に行く等している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを汲み取れるような表情や言葉かけをし気持ちを引き出せるようケアに入っている、意見を聞き広げている。本人、家族の意向をケアプランに反映させている。日々のかかわりの中で本人の意志や意向を確認している	1人1人の意向を把握できるように、日々の関わりの中でコミュニケーションを図っています。認知症等により意向をうまく伝えられない利用者については、家族からこれまでの状況を伺ったり、生活歴から検討する等本人本位に検討しています。	管理者より十分に利用者の意向を汲み取れていない点があるとの課題が示されましたので、今後も利用者の意向を多く汲み取っていただけるよう期待しています。
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがい 、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分史(フェイスシート)を活用しアセスメント表やご家族等からの情報、本人との会話より生活歴や生きがいなどの把握に努めている。アルバムなど活用し生活の把握に努めている。入居後もアセスメントして育てるシートとしている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録は食事や排泄入浴以外にも日々の気分や変化を記録するようにしている。また毎朝、夕の申し送りがある。業務日誌や連絡ノートも活用しながら現状の把握が出来るようにしている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月ごとにケアカンファレンスを実施。モニタリングシートを活用し職員全員の意見と本人、家族の意向を反映し作成している。また状態変化のある時は随時のカンファレンスも実施しプランの見直しをしている。主治医からもプランに対し意見をいただいている。より具現化したプランを作成していく事で入居者の望む生活を支援できるよう今後の課題にしていきたい	6か月毎に計画書の見直しを行っています。作成に当たっては、利用者、家族の意向や主治医等の他機関の専門職の意見も伺いながら計画書に反映させています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや毎月の会議の中で意見をまとめ、共有しながら、介護計画の見直しに生かしている。介護記録にプランに即した記録がなされ、随時、職員間での情報共有もなされている。ワイズマン内のモニタリングシートを活用しケアに対しての意見を全員に記入して貰い計画見直し時活用している。気づきや工夫は個別ノートを活用し情報共有に努めているユニット会議ではケアに関する注意点の話し合いもする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店や道の駅、病院、法人内の部署間での連携など身近にある資源を活用している。月に一度の支援ボランティアの来園や地域の保育園との交流、推進委員によるお茶会など開催している		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者が本人及び家族等の希望を取り入れ、適切な医療を受けられるように支援している。入所時、かかりつけ医と緊急受診先を確認している。24時間体制で受診困難時は往診対応も可能。薬はかかりつけ薬局から配達があり内容の変更に対し説明と確認がある。歯科受診も適宜行われている	利用者、家族がこれまでのかかりつけ医への受診を希望する場合には、継続した受診が可能です。また、事業所の嘱託医が担当する利用者については、24時間体制で指示を仰ぐことができます。薬局とも薬の受け渡し時に説明を受ける等して連携を図っています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師による週に一度の健康チェックがある。気になる点はいつでも相談に乗ってもらえる環境にある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	速やかな情報提供に努めている。法人相談室とも連携し退院後の相談にも応じている。病院関係者と連携を図り、本人、家族の意向を組み入れた情報交換や相談を行っている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、少しでも長くホームで生活できるようにご家族と話し合いをし支援を継続している。継続困難となった際も法人やかかりつけ医と連携しご本人、ご家族の希望に沿った支援をするように努めた。看取りも家族の希望、医師の指示でできる体制にある	重度化及び終末期ケアの指針を作成し、重度化及び終末期を迎えた場合であっても、利用者、家族が望めば、事業所での生活を継続する事が可能です。また、法人内での看取りケアについての研修も行っています。	事業所での看取りの実績はなく、今後看取りを希望される利用者がいらっしゃった際に、利用者、職員ともに不安なく看取りケアが実践されるように、事業所内で看取りの在り方等について議論や研修を進めていただける事を期待します。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の 実践 訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合の対応や事故発生時の話し合いを行っている。救命講習に職員が順次参加している。かや学は様々な場面想定した現状に必要な訓練を職員同士で提案して勉強実践している		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主防災訓練を毎月実施。年2回夜間想定総合防災訓練を消防、災害支援ボランティアの協力の下、実践している。又、水害を想定し避難準備指示での訓練を実施した。日頃から様々な災害を想定して訓練を行っている。	自主防災訓練を毎月実施する他、防災訓練、水害訓練も行っています。ハザードマップを事業所内に掲示し防災意識を高めています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活背景を理解した関わりを行い本人の意向を大切にしている。認知症の進行に合わせご本人の誇りを守れるような言葉かけを配慮している。その人にあった声掛けをするように努めている	様々な場面で、本人の意向を確認しながらその人の尊厳を大切にしている。言葉使いやプライバシーにも配慮した対応がされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の思いや希望を汲み取り自己決定できる様な言葉がけを心掛けている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安として決めている所もあるが、1人1人の生活のリズムを大切にその日の気分や天候に合わせて起床、入浴、外出や買い物などの活動を支援している。但し昼夜逆転などないように規則的な生活支援が必要と考えている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時のおしゃれ着などもご家族や本人と相談しながら準備している。また鏡も見やすい場所にあり自ら身だしなみが整えられるようにしている。外出時おしゃれや化粧品など楽しめるよう支援している。お気に入りの衣装や着こなしもほめている		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの旬の食材や行事に合わせた伝統的な食文化を理解し、好みや季節に合わせて希望を確認しながら献立を作っている。昔ながらの食事作りを職員は教わり、準備や片づけなど役割を持ち共に行っている。メニューに食べたい物を取りいれたり買い物にいった時に食べたい物があれば買っている	献立は利用者の意向を伺いながら検討し、外出の際に利用者との旬の物や食べたい物を購入してきて調理に活かしている。また、利用者の残存機能に応じて、調理の準備や後片付け、配膳等の役割を与えて食事を楽しんでいる。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう 状況を把握 し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや嗜好などに配慮し食物繊維、乳製品、季節の物を取りこんだ献立としている。職員は高齢者が脱水になりやすいことを理解し活動ごとの水分補給や飲むことが苦手な方にはではゼリーなど活用し水分補給に努めている。また献立は法人の管理栄養士からアドバイスを貰っている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、就寝前必ず行っている。また外出先から帰宅した場合のうがい手洗しも励行している。歯磨きは入れ歯や自歯の把握と磨き残しがないように能力に応じた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声をかけトイレへ向かえるようにしている。排泄状態を把握し安易にオムツにせず可能な限りトイレでの排泄を支援している	オムツを使用している利用者はおらず、普通の下着やリハビリパンツを利用している。利用者のしぐさや排泄のパターンの把握に努め、適切な声かけや誘導を行いながら自立支援に努めている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘のメカニズムを理解し、水分補給、毎朝30分の運動と乳製品や食物繊維を取り入れた食事や腹部のマッサージなど行い工夫をしている。排便状態も記録され便秘にならないよう管理をしている		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行い個別に対応している。衣類やタオルの準備など段階を踏みながら無理強いわず自ら入浴できるように配慮している。最低でも週2回は入浴できるように支援している。夏場は窓から植木など楽しめる工夫をしている	入浴を自ら希望する利用者はいないが、その人が嫌がる事のないように声かけ等を行いながら、入浴を促し清潔保持に努めている。入浴中は一緒に歌ったりしながら入浴を楽しめるように努めている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は午後9:00を目安にし、暗く静かな環境を作っている。各自の生活習慣や日中の活動量や状況に即した休息の支援をしている。一人一人の体調や就寝時間に配慮している。どうしても眠れない場合は静かに寄り添い見守るケアに努めている		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録ファイルに、既往歴と薬の内容が分かるように健康シート、薬の説明書を添付している。体調変化については主治医と看護師に適宜連絡し指示を確認している。変更時は特に変化がないか気をつけて観察している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人生史で職歴や趣味嗜好を理解しており、それぞれの得意とすることを活かし支援をしている。達成感や喜びを感じられるよう個々の状況に応じた時間配分をし、飽きたり疲れないよう支援している。天気に応じて外に出て散歩やドライブなどで気分転換をしている		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝のごみ捨てを兼ねた散歩や、気分転換を兼ね車でドライブ、買い物支援している。また計画的に花見や紅葉狩り、りんご狩りなど普段いけない場所へも計画的に出かけている。またご家族にも可能な範囲での協力を得ている。自宅へ立ち寄り、ふるさと訪問なども支援している	本人の意向を聞きながら、日々のゴミ捨てや散歩する等外出の機会を日常的に設けている。その他、季節に応じた外出行事の他個別でのドライブも行っている。年末は自宅へ外泊される方もいるとの事。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がご家族のご理解と協力を得て、お小遣い程度のお金を所持しており、好きな物を買う楽しみを得られるようにしている。自ら支払や現金管理できるよう支援している		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは年賀状程度でほとんどない。電話については使用を取り次いだり、携帯電話を使っている方がいる		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は混乱を招かないように配慮し、居心地よく過ごせるように工夫に努めている。天窓からの採光があり大きな窓の開放により季節の風を取り入れることができる。又、季節感のある装飾や暦を入居者と共に作っている。毎日、消毒液を使用しての掃除を入居者と共に行なっている。月1回、大掃除がありホーム内外の清潔に努めている。加湿器、空気清浄機も活用し温度、湿度に配慮している	天窓からの採光があり施設内は明るく過ごしやすくなっている。季節に合った装飾がされており子どもっぽくならないように工夫をしています。トイレは車椅子でも支障のない広さがとられていて、清潔感がある。対面キッチンの他、畳コーナーもあり家庭的な雰囲気が感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物そのものが小さな物陰や隠れる部分を作っている。遠くから様子を伺ったり、職員や他利用者に気兼ねせず好きな仲間と過ごせるスペースの工夫がされている。新聞、図書コーナーもあり活用されている。危険のないように配置換え等も行なっている。席は固定せずに時々いつもと違う所へ座り会話を楽しんでいる場面もみられる		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際しては出来る限り使い慣れた家具や寝具食器などを持ってきていただいている。今までの家具の配置など最大限に配慮し落ち着いて過ごせるように支援している。またアルバムや本など出来る限り見慣れたものを置くようにしている。本人、家族の意向で備え付けのベッドではなく布団で過ごされている方もいる	居室には、ベッドとタンスを置いており、それ以外については自宅で使っていた物を自由に持ち込めるようにして、本人が居心地良く過ごせるよう配慮されている。また、本人の過ごしやすいように不必要に物を置かないようにして、安全面等にも配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所は対面式で調理をしながらでもお互いの確認でき安全な生活支援に繋げている。食堂から和室まで段差のない作りとなっている。全館床暖房で安全な生活に配慮している。モニターを活用し死角の見守りと安全に自立した生活出来るよう工夫している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容